

【事業実績】

1. 博物館継続のための法人化検討

「価値評価されずに消えていこうとしている玩具を後世に遺す」という明確な使命をもって蒐集し、調査研究活動に努め、成果を展示公開することで玩具や人形の価値向上に努めてきた。多くの寄贈も受け、国内外から高い評価を頂けるようになったが、運営面では、館長自身が高齢（84歳）であることに加え、コロナ禍など様々な要因から存続の危機に陥っている。9万点の貴重なコレクションを未来に遺すためには、社会的な信用を高め、個人ではなく組織で博物館創設の理念をつなげていく法人化が必要であると考え、博物館有識者、地域の支援者、士業関係者から助言を仰ぎ、日本玩具博物館の継続のため検討を続けている。

① 法人化勉強会

趣旨：博物館という特殊な事業を個人から法人化する場合の種別（営利法人・非営利法人）を理解し、新しい組織体制を検討した。相談先：文化庁 / 公益財団法人公益事業支援協会 / 一般財団法人運営関係者 / 商工会 / 事業承継・引継ぎ支援センター / 弁護士 / 税理士（順不同）

助言からの方針：相談先からの具体的かつ忌憚ない助言により各種法人の特徴を理解した。そのうえで、日本玩具博物館の理念を引き継ぎコレクションを未来につなぐために、非営利の一般財団法人を目指す方針とした。小さな私設博物館が今後も活動を続けるために最も重要なものは人材である。新しい体制のもと、環境の整備拡充と人材育成を行い、持続可能な法人として維持発展に努め、登録博物館を目指す。

② 法人化のための事前準備会議実施

会議趣旨：法人化のための事前として「新しい日本玩具博物館のあり方」を博物館有識者や博物館支援者で自由討論した。

提言総括：入館者数激減という現状から、非営利法人であっても博物館を運営するため、公益事業と収益事業のバランスを考慮しつつ資金をどのように調達するか検討した。館外での活動は今まで依頼中心であったが、自主事業として提案（情報発信）し、様々な人や企業と協力しながら企画を貸出していくこととした。人材育成のためにも運営管理をどう整えていくかが継続の鍵となる。多くの資料が未整理であるため、調査研究・保存・展示という基本活動を今後の活動の中心としながら、地域貢献やボランティアとの活動は長期の目標として取り組むべきではないか。



2022年10月 法人化準備会議

③ 法人化推進会議実施

会議趣旨：一般財団法人設立のための具体的な計画を検討した。

検討総括：地域の課題に対して博物館がどのように貢献できるかを具体的に協議するためにも地元で活動されている方を組織に迎える必要がある。また、人材（学芸・管理）育成のためにも、運営基盤を強化し、資金調達への積極的な取り組みが必須であり、他館の例をもとに、補助金・助成金・寄付を受けるための準備についても検討した。

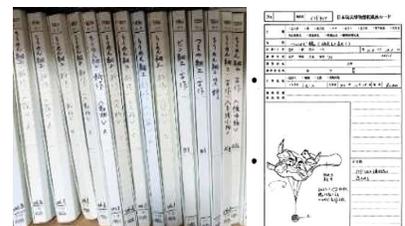


2023年2月 法人化推進会議

2 収藏品・資料のデジタル化

① 資料の集約・分類・デジタル化方針立案

2010年頃までは収藏品の資料や企画記録などはすべて紙で保存されており、その後デジタル保存はしているが紙に印刷することが前提の形式であった。まずは、48年間の博物館の情報を分類し、優先順位をつけてデジタル化する方針を決定した。



② 紙資料デジタル化

② 紙資料デジタル化 (収蔵品 11,030件)

学芸員が日々利用する資料で、写真や添付資料が追加されているため、館内に作業場所を設け、オーバードスキャナで一枚ずつ手作業でデジタル化した。

③ ネガ・ポジフィルムデジタル化 (収蔵品/展示 9,081枚)

④ 資料・企画記録写真デジタル化 (企画/展示 9,414枚)



③④ネガ・ポジ写真デジタル化

⑤ Word 収蔵品カード変換 (収蔵品 4,439件)

データベース投入と活用のため Excel に変換し、資料写真は各レコードにリンクした。



⑤データ変換

⑥ 収蔵品デジタル撮影 (849枚)

⑦ 収蔵品動画撮影・動画編集 (40本)

撮影した動画や資料を QR コードを利用して資料に関連付けた。

<https://japan-toy-museum.org/archives/25808>

⑥デジタル撮影

⑦動画撮影・編集



3 観光振興のための連携

姫路市観光課・姫路観光コンベンションビューローとの連携により、観光課制作の動画の SNS 公開、特別展の後援支援、姫路市広報への掲載など観光振興のための情報発信を積極的に行った。

また、博物館存続のためのアンケート実施においては、観光課職員及び姫路市役所庁内にて協力を得た。



20~30代向け観光サイト

SNS からの特別展情報発信

<日本玩具博物館の存続に向けたアンケート結果分析と今後の活動>

実施期間：2023年2月27日～3月12日 回答：338

実施方法：ホームページ、SNS からのインターネットフォーム、来館者へのアンケート用紙配布

結果：94.4%の来館者が博物館に満足されているという結果が今後の活動の励みとなった。

来館者の約6割が兵庫県内在住で、約7割の方が複数回来館されており、その目的は、博物館の展示を見るためが圧倒的に多かった。何度も足を運んで下さる来館者のためにも新しい企画を試みる予定だ。

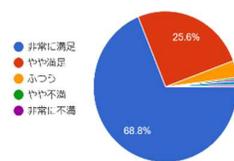
所蔵品の活用で期待されている通り、資料のデジタル化と公開を推進し、まずは、

近隣の小学校と連携した教育活動を実施する予定である。

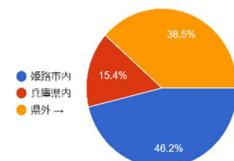
「他に類を見ない貴重な博物館です。頑張ってください」という激励を多くいただいた。

小さな博物館の再出発を地域の皆様、支援者の皆様と共に成し遂げたい。

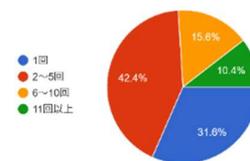
日本玩具博物館の全体的な感想
250件の回答



住所：お住まいはどちらですか
338件の回答



何回来館されましたか
250件の回答



玩具・人形の所蔵品の活用で期待すること (1~2つまで選択)
250件の回答

